

# 当院不妊治療外来で妊娠出産した症例の分娩時合併症の詳細

医療法人社団 徐クリニック ARTセンター

○ 徐 東舜 伊藤 真理 峰 千尋 越智 雪乃 清須 知栄子

## 目的

体外受精妊娠の際、分娩時に出血量が多くなるという報告がみられる。その詳細は不明な点も多い。今回我々は、移植方法別に周産期の結果及び出産時の出血量を増加させる合併症の発症頻度に差異がないか比較検討した。

## 方法と対象

当院不妊外来で2015-2019年に体外受精で妊娠し単胎出産した症例に対し、分娩院へ周産期および分娩時合併症に関するアンケートを行った。分娩院からのアンケートの回収数は1021で、回収率は97.0% (1021/1053) であった。ホルモン補充周期の融解胚移植 (347例)、自然周期の融解胚移植 (222例)、新鮮胚移植 (49例)で妊娠分娩した症例それぞれを対象とし、一般不妊治療 {排卵誘発、自然での人工授精及びタイミングで妊娠 (403例)} の分娩症例を比較対象とした。

## 結果-① (表1)

周産期に関しては、一般不妊治療と比較すると母体の年齢はいずれの移植方法よりも有意に低く、早産率および過期産率はホルモン補充周期、帝王切開率ではホルモン補充周期、自然周期の方が一般不妊治療よりも有意に高い。移植方法間での比較では、母体の年齢は新鮮胚移植がホルモン補充周期、自然周期よりも有意に高い。また、帝王切開の割合では、ホルモン補充周期が自然周期、新鮮胚移植に対して、有意に高かった。

### 表1：周産期の結果

	IVF						一般
	融解胚移植		新鮮胚移植		新鮮胚移植		
	ホルモン補充周期	自然周期	新鮮胚移植	新鮮胚移植			
出産数	347	222	49			403	
年齢	35.4 ± 3.8	36.1 ± 3.7	38.3 ± 3.5	***		33.5 ± 3.9	
妊娠週数	39W1D ± 15D	39W1D ± 9D	39W2D ± 11D			39W3D ± 10D	
早産率(37W未満)	7.8%	4.5%	8.2%	*		4.2%	
過期産(42W以上)	1.2%	0%	0%			0%	
奇形率	1.2%	0.9%	0%			0.7%	
妊娠既往あり	63.7%	72.5%	59.2%	*		62.0%	
分娩既往あり	45.5%	54.5%	38.8%	*		47.9%	
帝王切開率	36.6%	26.6%	16.3%	*		18.1%	

## 結果-② (表2)

分娩時合併症に関しては、一般不妊治療とそれぞれの移植方法を比較すると、前置胎盤では全ての移植方法の方が有意に高かった。癒着胎盤、1000ml以上の出血の有無、輸血の有無、妊娠高血圧の項目では、一般不妊治療よりもホルモン補充周期の方が有意に高かった。移植方法間では、ホルモン補充周期は他の移植方法に比べ1000ml以上の出血の発症率が有意に高かった。ホルモン補充周期は自然周期と比較すると、癒着胎盤、1000ml以上の出血、輸血の有無、妊娠高血圧で有意に高くなった。

### 表2：周産期の合併症

	ホルモン補充周期	自然周期	新鮮胚移植	新鮮胚移植	一般
前置胎盤	2.9%	3.6%	8.2%	*	0.5%
癒着胎盤	4.6%	0.5%	0%		1.0%
胎盤早期剥離	0.6%	0%	0%		0%
出血1000ml以上	20.2%	3.2%	4.1%	*	2.2%
輸血	3.7%	0.9%	0%		0.2%
妊娠高血圧	5.2%	1.8%	2.0%		1.2%

\* : p < 0.05

## 結果-③ (表3)

ホルモン補充周期の融解胚移植 vs 自然周期の融解胚移植、ホルモン補充周期の融解胚移植 vs 新鮮胚移植において、それぞれのオッズ比を算出した。ホルモン補充周期の融解胚移植は自然周期の融解胚移植と比較すると、帝王切開率、癒着胎盤、出血1000ml以上において有意に高値を認めた。ホルモン補充周期の融解胚移植は新鮮胚移植と比較すると、妊娠既往あり、帝王切開率、前置胎盤、出血1000ml以上において有意に高値を認めた。

### 表3：ホルモン補充周期と自然周期及び新鮮胚移植周期のオッズ比による比較

	ホルモン補充周期 vs 自然周期 調整オッズ比 (95%信頼区間) *	ホルモン補充周期 vs 新鮮胚移植 調整オッズ比 (95%信頼区間) *
早産率(37W未満)	1.68 (0.79-3.57)	0.76 (0.24-2.38)
過期産(42W以上)	5.7 × 10 <sup>7</sup> (---)	2.8 × 10 <sup>7</sup> (---)
奇形率	1.46 (0.26-8.25)	2.9 × 10 <sup>7</sup> (---)
妊娠既往あり	0.72 (0.49-1.06)	<b>2.10 (1.08-4.11)</b>
分娩既往あり	0.76 (0.54-1.08)	1.78 (0.93-3.38)
帝王切開率	<b>1.64 (1.13-2.38)</b>	<b>3.86 (1.70-8.73)</b>
合併症		
前置胎盤	0.75 (0.29-1.96)	<b>0.23 (0.06-0.84)</b>
癒着胎盤	<b>10.65 (1.40-81.14)</b>	7.3 × 10 <sup>7</sup> (---)
胎盤早期剥離	2.6 × 10 <sup>7</sup> (---)	1.3 × 10 <sup>7</sup> (---)
出血1000ml以上	<b>7.74 (3.48-17.21)</b>	<b>5.81 (1.36-24.91)</b>
輸血	4.04 (0.90-18.21)	5.2 × 10 <sup>7</sup> (---)
妊娠高血圧	2.69 (0.89-8.11)	2.01 (0.25-16.03)

\* : 年齢及びBMIを補正

## 結語

ホルモン補充周期の融解胚移植は、他の移植方法と比較すると帝王切開率が高く、多量出血のリスクである癒着胎盤の発症率が高い。可能な限り凍結融解胚移植は、自然周期にすることが望まれる。

## 利益相反状態の開示

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。